

第33回くまもと環境賞 受賞者一覧

名前	受賞状況	主な功績
西松建設(株)立野ダムJV 工事事務所	部門賞 (くまもとゼロカーボン賞)	・廃食油の回収及び、廃食油より精製されるバイオ燃料(BDF)を建設重機の燃料の一部に使用し、建設現場から排出されるC o 2を削減する活動を実施。 ・地元自治体(南阿蘇村)や地元企業と連携し、複数箇所に廃食油回収スポットを設け、計3,158ℓ(ドラム缶15.8本分)の廃食油を回収しBDFとしてリサイクル(BDF製造により5.7tのC o 2を削減)。また、BDF専用重機の燃料として累計78,942ℓのB D Fを使用し、203.7tのC o 2を削減。
熊本県立北稜高等学校 造園科	部門賞 (くまもと循環型社会賞)	・授業、実習で排出される廃材(年間約50t)のうち、50%をチップ化または、用土と混ぜ込み腐葉土として草花栽培に活用。廃材を利用した箱庭製作と地域の公共機関への設置。 ・剪定くずや竹チップのキノコ栽培への活用や、菌床をコケ玉の床土として再利用し、ワークショップ等の環境普及活動を実施。 ・廃材の竹・木材(0.5t削減)を利用して小中学生と門松製作交流会を実施。 ・廃材の竹(2t削減)を利用し、幼稚園児とそうめん流し交流会を実施。
球磨湿地研究会	部門賞 (くまもと自然共生賞)	人吉球磨地方内の湿地の保全、絶滅危惧種の保全及び生育環境の再生に関する活動を実施。 ・多くの研究者と連携し、タガメに関する個体群動態解析、基礎生態学的研究、種の分布モデル等の研究結果を踏まえ、生息域の拡大を図る活動を実施。 ・地域における活動報告会の実施や、高校生と連携した湿地保全活動及び小学校における総合的な学習として水生生物観察を実施。
熊本県立天草高等学校 科学部	部門賞 (くまもと自然共生賞)	・生態調査を実施し、天草に生息するゲンジボタルが、九州に広く分布するゲンジボタルと異なる発光周期をもつ希少なホタルであることを発見。発光周期と気温や明るさとの関連について研究し、発光周期の結果を根拠としたゲンジボタルの新たな保護方法を考案。 ・天草市と共催で、「生態系の保全」をテーマとした市民向けの環境シンポジウムを実施。
株式会社 もやいネット真城	部門賞 (くまもと水の国賞)	・地域農業に欠かせない水源である湧水地の保全に取り組むとともに、水田オーナー制度による農地保全活動や、冬季湛水事業による地下水涵養を実施。 ・水田オーナー制度(10企業・団体、7個人、0.7ha) ・冬季湛水事業(18農家、13.1ha) ・大津北小の児童を対象に、田植え・稲刈り等の農業体験を通じ、地下水保全や水田の多面的機能について学ぶ米づくり学習を実施。
熊本県立南稜高等学校 総合農業科 環境コース 林業専攻	部門賞 (くまもと環境教育賞)	・被災地域での木育活動を展開。大学、NPO法人、関係市町村と連携し「復興応援！木育フェア」を開催。 ・豪雨被害で浸水した写真を洗浄し、端材(地元企業から提供)を有効活用して製作した木製フォトスタンドと共に返却する取組みを実施。 ・端材を利用した木炭の製造及び農地への活用。 ・地元保育園児との広葉樹の苗木づくりや植林活動。
水俣市立袋中学校	地域貢献賞	・総合的な学習の時間において、1年生～3年生まで段階的に、体験的な活動を多く取り入れた環境学習を実施。 ・干潟の清掃活動を「干潟のクリーンアップ作戦」として、地域住民にも呼びかけ、全校生徒で年2回実施。地域のゴミ分別活動に生徒が積極的に参加。
菊池市立菊池北中学校		・全校生徒が一人一鉢の菊栽培を行い、菊池市で開催の「菊祭り」に出展。菊祭り終了後、地域の高齢者宅を訪問し、清掃活動及び菊の鉢を贈呈。 ・委員会でのペットボトルキャップ集め(令和5年度40kg)、城山の日(菊池神社清掃)等の環境保全活動を実施。
熊本県立菊池農業高等 学校SDGs研究班	奨励賞 (くまもとゼロカーボン部門)	・地域と協力して放置竹林を整備し、地域景観の向上と竹の更新によるC o 2吸収効果を増大。 ・伐採した竹で竹灯籠や三角灯籠づくりワークショップ、竹チップ発酵肥料づくりを実施。 ・竹を粉碎した竹チップを段ボール生ごみコンポストの資材として活用し、地域から出る生ごみと焼却処分時のC o 2を削減。 ・バイオ竹炭に加工し農業資材として活用し、土壌の炭素貯留量を増加。 ・タケノコの消費拡大のための干しタケノコの加工及び商品拡大。